

名桜大学における 「人の移動」研究について

小川寿美子
附属図書館長
公立大学法人名桜大学

沖縄県大学図書館協議会・講演
平成28年9月14日（水）

内容

1. やんばる発「人の移動」研究の現代的意義
2. 名桜大学における「人の移動」研究について
3. 世界のウチナーンチュ大会と
「地域貢献研究萌芽的プロジェクト」
4. これからの大学附属図書館の役割と将来構想

1. やんばんる発「人の移動」研究の意義

1. ポスト「人の移動と21世紀のグローバル社会」
2. やんばんるから移民として海外に渡った人が多い
3. 「移民の父・當山久三」にまつわる史実

1. ポスト「人の移動と21世紀のグローバル社会」

- 文部科学省
特別経費プロジェクト
(**琉球大学**：H20-25)
研究代表者：山里勝己

成果物：10冊の本 →
意義：全学部横断型研究

→ やんばるに注目し
掘り下げた研究を
(**名桜大学**：H26-現在に至る)



2-1. 沖縄 人の移動 (～昭和10年)

□ 世界に移動した沖縄県民の
26.3%が国頭郡出身 (図1)

□ 国頭郡の約**5人に1人**が
世界に移動 (図2)

図1：沖縄県市郡別累積移動者数 (～昭和10年)

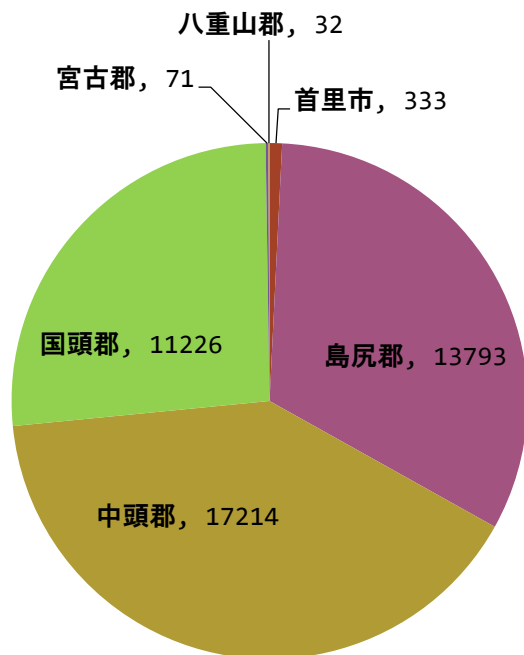
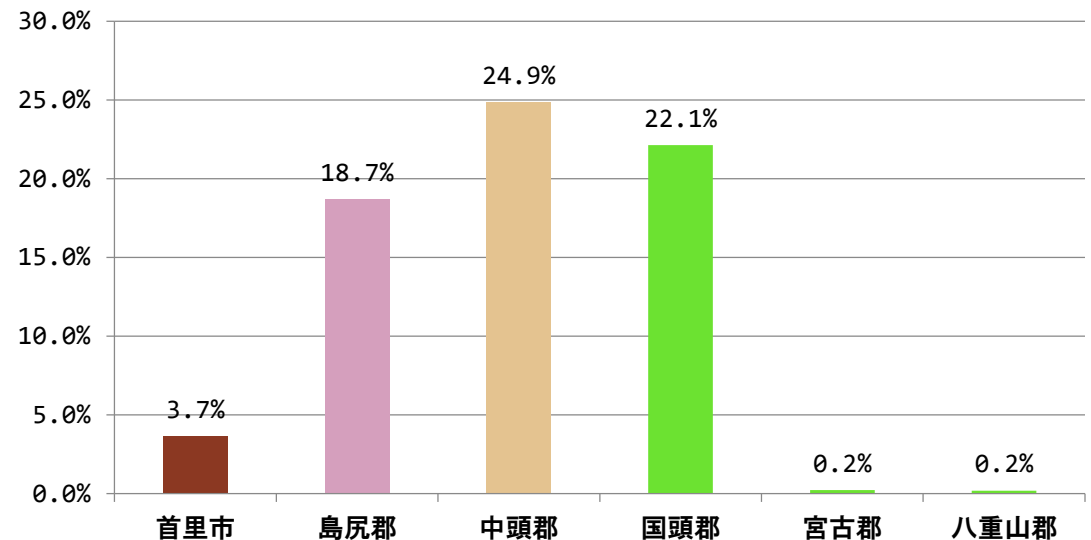


図2：移動者 (人口比：昭和10年迄)

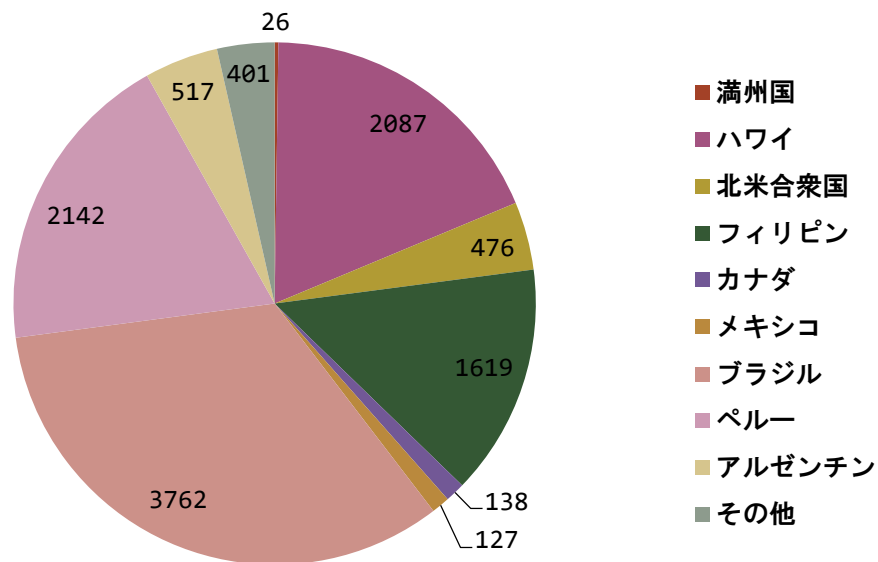


出典：「沖縄県史 (第7巻各論編6 移民)」のデータより (図1,2)

2-2. やんばる 人の移動 (～昭和10年)

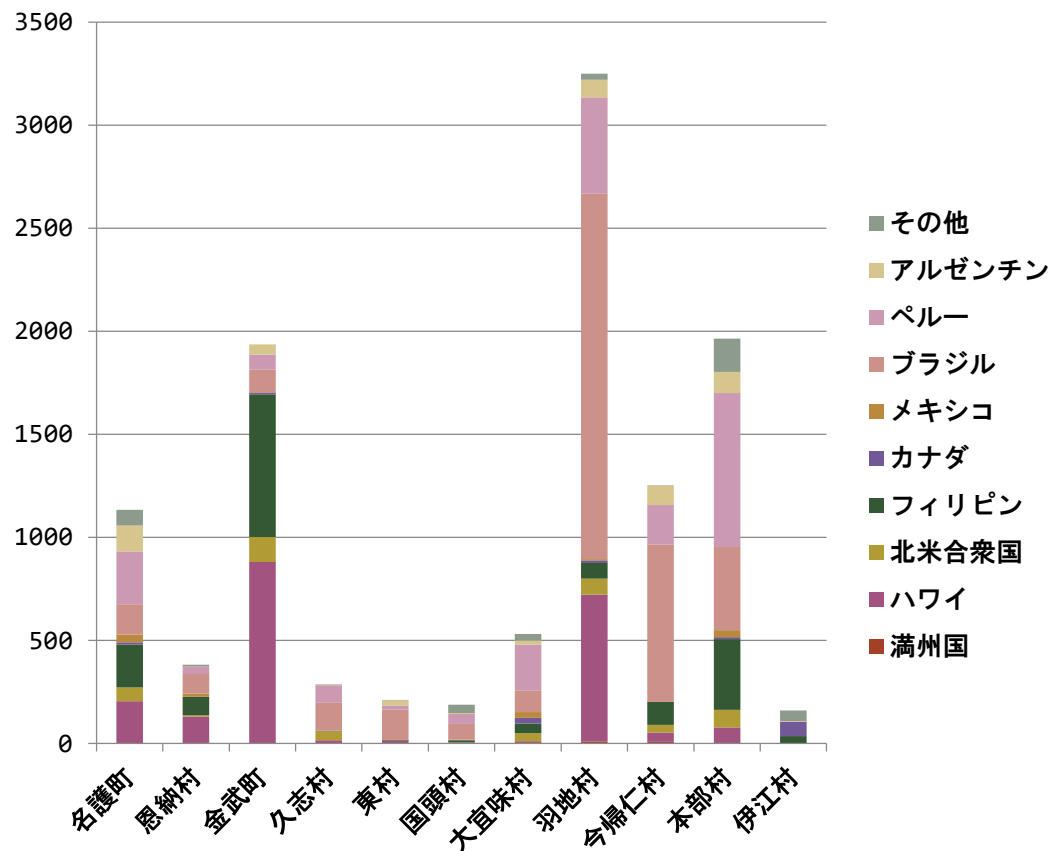
□ 移動先ベスト3

①ブラジル、②ペルー、③ハワイ



□ 移動者の多かった村

①羽地村、②本部村 & 金武村



出典：「沖縄県史（第7巻各論編6 移民）」のデータより

3. 「移民の父・當山久三」にまつわる史実

□ 平良新助（今帰仁村出身）

「謝花、**當山**、上間（羽地村）の遊説を中学生の平良が聞き感動・・・

中途退学し民権運動に傾倒・・・

常に謝花、**當山**に従い、各方面を駆け巡る・・・

その後、**當山の移民事業**に協力しその片腕となって渡米した。」

（親泊、1935）

ひらみかち節 作詞者

一、七転びくるでひやみかち起きて
わたしたこの沖縄世界に知らさ

（大意）

一、七転び転んでどん底に迄落ち込んだ沖縄ではあるが、
エイッとはね起きて、勇気を振って立ち上がった吾等の
沖縄を世界に知らそう



平良新助翁銅像・歌碑建立（今帰仁村越地区 2015年11月）

2. 名桜大学における「人の移動」研究の経緯

1. 名桜大学基盤形成事業（H26～）

6班から構成（中南米、北米、オセアニア、東アジア、
東南アジア、沖縄地域）

2. Brazil：住江淳司・副学長

ロンドリーナ市における沖縄県系人の文化触変と挿入

3. Australia：高嶺司・国際交流センター長

真珠貝採取ダイバーたちのみた夢と実現

1. 名桜大学基盤形成事業（H26～）

- 平成26年度より開始（3年目）
- ポスト「人の移動と21世紀のグローバル社会」
- 特に、やんばる地域に着目
- 6班から構成
 - ： 班長（敬称略）
 - 中南米 : 住江淳司
 - 北米 : 小川寿美子
 - オセアニア : 高嶺 司
 - 東アジア : 菅野敦志
 - 東南アジア : 下地紀靖
 - 沖縄地域 : 宮平栄治





2. Brazil : 住江淳司・副学長 ロンドリーナ市における沖縄県系人の 文化触変と挿入

文化触変の全過程 (スパイサー説)



1. **拒絶**もしくは**黙殺**：外来の文化要素を受け付けない。
2. **置換**：外来の文化要素が、完全に在来の文化要素に置き換わる。
3. **同化統合**：外来の文化要素優位に在来の文化要素が変化して、両者が合体する。
4. **編入統合**：在来の文化要素優位に外来の文化要素が変化して、両者が合体する。
5. **融合統合**：両者が対等に变化して合体し、第三の新しい文化要素となる。
6. **隔離統合**：両者が無関係に並存して、二重性を作り出す。
7. **挿入**：在来の文化要素が存在しないので、外来の文化要素がそのまま受け入れられる。

結論 1



- 戦後の困難な状況のもと、沖縄移民たちは戦争で家族を失い、日常生活に最低限必要な食料さえ手に入らなかったことにより沖縄を去った。彼らは、親戚か、先にブラジルに移住していた友人からの「呼び寄せ」で渡伯した。
- 沖縄移民らはブラジルでポルトガル語とブラジル文化という様々な問題に直面しながらも、同郷の人々の間で集まるようになった。
- このメンバーの間で金銭的な扶助の為の模合（頼母子）を始めた。この模合がきっかけとなり後にアクロル（沖縄県人会）が組織された。

結論 2



- アクロルにはロンドリーナ社会で見られる**国際文化論の文化触変の一つ**で、「**挿入**」と呼ばれているものがある。
その事例が「**模合**」であり「**持ち寄り**」である。
- ライフストーリーの語りを分析した結果、1世たちは言葉や文化の壁があったにもかかわらず第二次世界大戦後、**子供の教育**に力を入れ始めた。その頃から**永住**を計画し始めたのである。
- 沖縄の1世たちは対象者一人を除けば、ほぼ全員が沖縄への里帰りを数回経験している。つまり、語りからうかがえるように1世らは現在沖縄よりも**ブラジルの方を終の棲家に選択**しているといえる。



3. Australia : 高嶺司・国際交流センター長

真珠貝採取ダイバーたちのみた夢と実現



『琉球新報』 1958年2月21日 日刊1面

「豪州木曜島の真珠採取に従事する雇用移民（漁夫）162名が、来る24日送りだされる。同移民は、昨年豪州木曜島の真珠会社から民政府を通じ、求人希望があったもので、労働局では、民政府労働部と協力、スクラップ業の不振による転職者等を募って、潜水、機関の取扱い、航海術等を中心にした実技訓練を昨年の12月31日から石川ビーチで実施、送り出しに万全を期していた。

豪州への漁夫

162名いよいよ24日出発

豪州木曜島の真珠採取に従事する雇用移民（漁夫）162名が、来る24日送りだされる。同移民は、昨年豪州木曜島の真珠会社から民政府を通じ、求人希望があったもので、労働局では、民政府労働部と協力、スクラップ業の不振による転職者等を募って、潜水、機関の取扱い、航海術等を中心にした実技訓練を昨年の12月31日から石川ビーチで実施、送り出しに万全を期していた。

政府労働部のリーライ氏は、旅費申請のため昨日、関係機関と折衝を続けていたが、来る24日豪州から福元の船が立ち寄ることになった。

送り出される移民は、ダイバー、タンクラー、機関士などで、次の六社で真珠採取に従事することになっているが、船は出航前日、送り出しは自由。

平アンパル社	七十一名
ホマヤン社	三十一名
フライヤブ社	六十名
ダイフィールド社	十四名
ワヤラセル社	十八名
ケーブヨーク社	六名

（計百六十一名）

民間労働局では、「このような海外雇用移民に対し、政府が積極的に技術指導などを行い計画的に助を行つたのは初めてだが、その成績の如何によっては、今後もしドンドン求人があるものと期待される」と、移民の海外雇用に希望がもたらされると喜びを語っている。

職員の増員精密に検

24日から官房中

政府では二十日の局長会議で、千四百名から千五百名に増員することを決定し、要求も含めて政府の職員は、不

『琉球新報』 1958年2月24日 夕刊 3面

- イースタン・クイン号
 - 先に渡豪の40名が好成績
 - 1週間～1ヶ月の訓練
 - 朝ターミナルビルで壮行会
 - 大田副主席が代理出席
-
- 沖縄タイムス？
 - 「採貝漁夫けさ豪州へ 大量求人の希望担い 二年契約で百六十名」 (2月24日)
 - 「更に第二次五十名の求人 豪州行きダイバー幸先よい出発」 (2月25日)



H28年度の研究予定

□ 県内での追跡調査

- 故新城亀吉氏(糸満)及び故屋良朝俊氏(那覇)のご遺族
- 故新川(本部町浜崎出身)の弟さん
- セイカンさん(国頭村辺土名出身)帰国
- 久米島出身者が木曜島に多くいた
- 平川さんの妹さん

□ オーストラリアでの再現地調査

- 仲地カズオさん(本部浜崎出身)現在ケアンズ在住
- オーストラリア側資料のさらなる収集

□ 平川京三さんへの再インタビュー



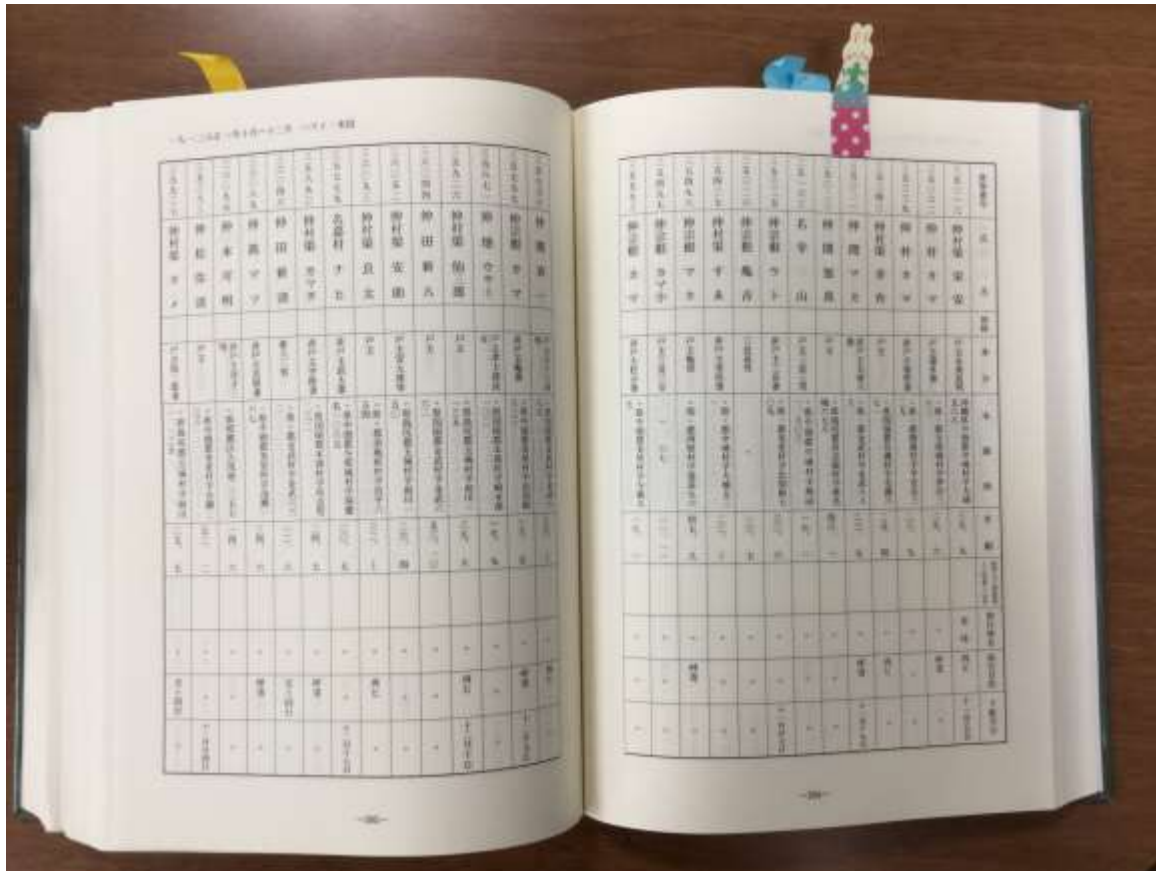
平川京三さん（81歳）と高嶺教授

3. 世界のウチナーンチュ大会と 地域貢献研究萌芽的プロジェクト

1. 移動者の情報拠点として
2. 世界若者ウチナーンチュ大会、市町村イベントでの基盤づくり
3. かつて海外へと「移動」した
ウチナーンチュ家族とネットワーク構築

1. 移動者の情報拠点として -1

□ ルーツ探し：仲間G氏（ハワイ2世）



両親は、宜野座村漢那区出身、役場で両親の記録は見つからず。しかし「沖縄県史」「字誌」で発見！

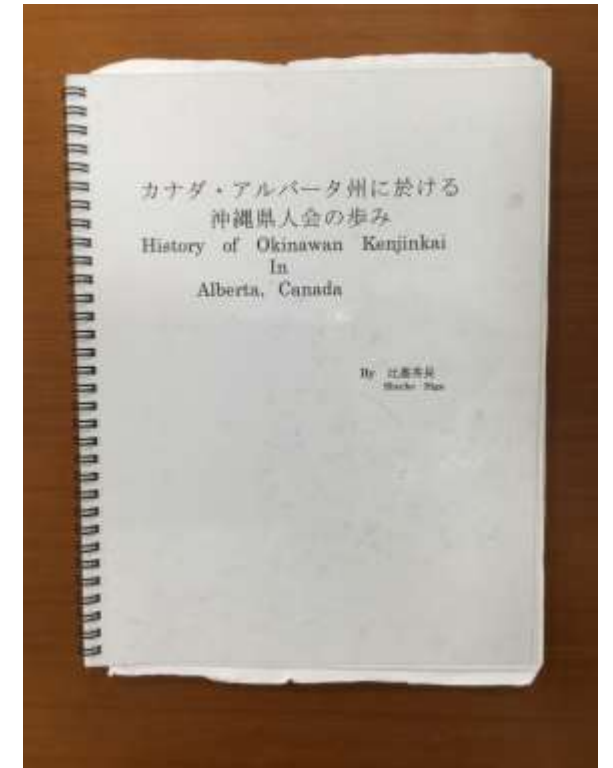
1. 移動者の情報拠点として -2

□ 海外県人会資料の翻訳、冊子化の支援：

— 世代を重ねるにつれてバイリンガルが少ない

— 貴重な移民資料が現地で埋もれたまま

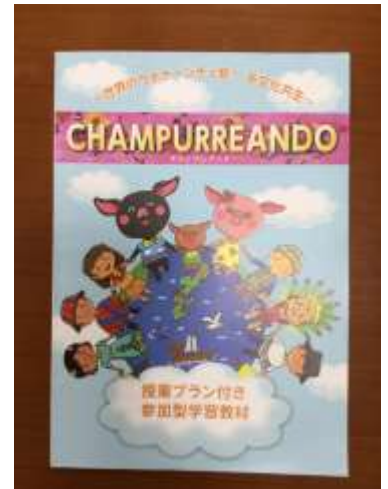
(事例) カナダ・アルバータ州の
県人会資料の翻訳・冊子化へ (→)



1. 移動者の情報拠点として -3

□ 沖縄&世界のウチナーンチュの現状に興味津々

- (例) カナダ移民にとってキューバ移民の情報ゼロ、
しかし、他国の状況にとっても興味あり
- 世界のウチナーンチュ大会は5年に1度 (一過性)
- 必要な時に、必要な情報を入手したり交換する
仕組みは作れないものか



2. 世界若者ウチナーンチュ大会、 市町村イベントでの基盤づくり

□ 10月20-23日：
若者大会にて



□ 10月28日を中心に：
市町村イベントにて
(やんばる地域に限定)



3. 海外ウチナーンチュ家族とネットワーク構築 その意義

□ (海外へ) 図書館ならではの
情報ネットワークを提供

➡ 図書館のNew Mission

□ (大学で) 学生にとって
“人の移動” をより身近に

➡ “国際教養人” の促進



4. これからの大学附属図書館の役割と将来構想

1. Internetの普及によるアクセス易、図書館の立ち位置は？
2. 貴重コレクションのリスト公開、館内閲覧も可
3. 本大学附属図書館増改築計画
4. やんばんる・人の移動資料室の立ち上げ構想

1. 図書館の立ち位置

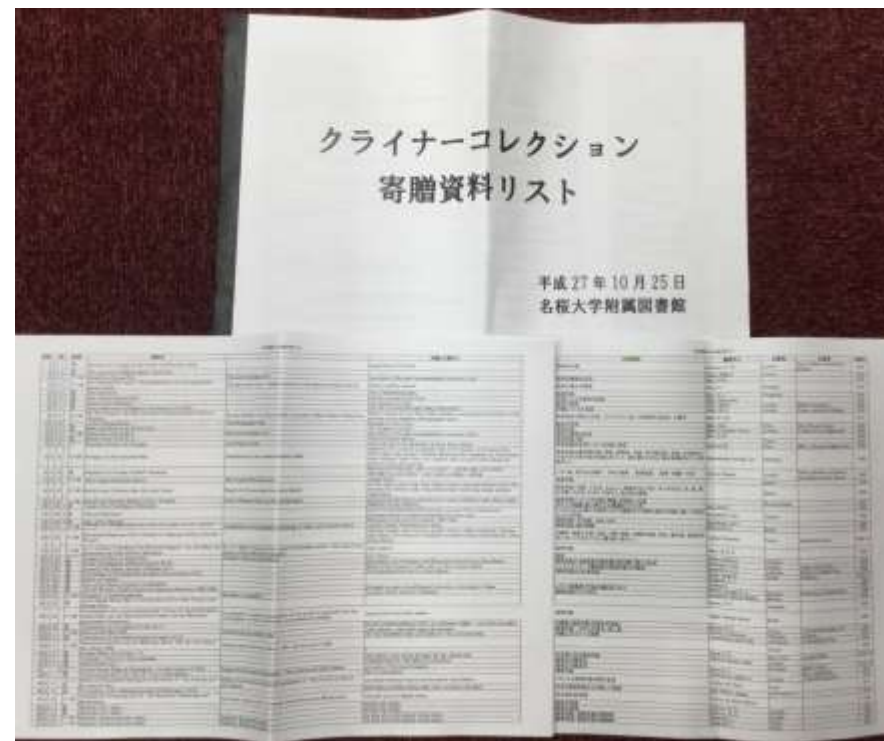
- インターネットの普及により、誰でも何処でも“情報”にアクセスすることが容易
- 図書館の利用率低下（特に若者）
- IT時代の図書館の役割は？



2. 貴重コレクションのリスト公開、館内閲覧

□ 湧川清榮氏 計5167点

□ Josef Kreiner氏 計412点



3. 本大学附属図書館増改築計画

- 16万冊から30万冊収納可能なスペースへ
- コンセプトは『個性』 『知性』 『感性』 を育む空間

個性

集中できる場

- ・ほかの人が気にならない
- ・複数人でも利用したい
- ・効率的に作業した

新館 2F

知性

アウトプットの場

- ・必要な学習リソースの集積
- ・重要な地域資料の集積

新・旧館 1F

感性

憩える場

- ・頭と体のリラックス
- ・疲れない、疲れをとる
- ・頭の刺激（インスピレーションを生む）

旧館 1F

4. やんばんる・人の移動資料室の立ち上げ構想

知性

重要な地域資料の集積

- 世界のウチナーンチュ・“やんばんる特派員”の募集



名桜大学附属図書館内にアクティブボードを設置(イメージ図)

- 資料のデジタル化、移民・移住コレクションの館内展示（一部デジタル）

- ・ 自由移民名簿&取扱会社移民名簿のDB作成によるルーツ探しのシステム化、
- ・ デジタルサイネージによる「人の移動」コレクションの館内展示:下写真)



(イメージ図)

4. やんばる・人の移動資料室の立ち上げ構想

知性

アウトプットの間

- 「移動者」と一方向でなく、双方向の関係
→ 沖縄県系移民、移住者と双方向関係を築く
(ルーツ探しの支援 vs インタビュー)
- 『やんばる物語—人類の普遍的課題なる
〈人の移動〉』の編纂





御静聴ありがとうございました